

令和8年度 第2回久留米市食育推進会議 議事要旨

日 時：令和8年7月30日（木） 14：00～15：20

場 所：久留米市役所本庁舎 4階会議室

出席者：吉田会長、浅野副会長、鶴委員、柿原委員、菊池委員、井手委員、永淵委員、
江崎委員、森山委員、永田委員、執行委員、安永委員、和田委員、藤田委員、
馬場委員、橋本委員、大野委員、平田委員 18名

欠席者：多々野委員、友野委員、山下委員、尾形委員、若江委員 5名

事務局：農政部 井上次長

農政課 戸上課長、池田主幹、池上補佐、松岡主査

農業の魅力促進課 河野課長、大石補佐

子ども未来部子ども保育課 石橋課長、重永

子ども未来部こども子育てサポートセンター 乙丸所長、小宮

教育部学校教育課 田中課長、藤原指導主事

教育部学校保健課 深田課長、相浦主査

健康福祉部保健所健康推進課 渋谷課長、島本主査

環境部資源循環推進課 津川主幹、執行

傍聴者：なし

次第：1 会長あいさつ

2 新任委員あいさつ

3 議案

第1号 令和7年度久留米市食育推進会議 事業実績及び決算、監査

第2号 令和8年度久留米市食育推進会議 事業計画（案）及び予算（案）

4 協議事項

（1）第5次久留米市食育推進プランの骨子（案）

5 その他

議事：

1 会長あいさつ

2 新任委員あいさつ

3 議案

第1号 令和7年度久留米市食育推進会議 事業実績及び決算、監査

質疑なし、承認

第2号 令和8年度久留米市食育推進会議 事業計画（案）及び予算（案）

質疑なし、承認

4 協議事項

(1) 第5次久留米市食育推進プランの骨子（案）

A委員	国の食育推進計画の中に「大人の食育」とある。市では基本施策Ⅰで「子どもの」とあるが、Ⅱの健康づくりで「大人の」を入れなかった理由や狙いはあるのか。 Ⅱの取組みの方向性で「健康な」食生活とあるが、国では「健全な」食生活という表記。変えた狙いや思いがあれば教えてほしい。 今回の国の法改正では食料安保の考え方が打ち出されているが、市の骨子に入っていないのは地方自治体の計画としてそぐわないからか。 大人の食育はⅡの健康づくりに入っていると思うが、資料2の対応表を見ると、食育推進会議の主な意見①に○は付いていない。食への感謝や食を楽しむのは大人の食育にも必要ではないか。
事務局	大人の食育が国の重点事項にあがったのは今回から。経緯としては人生の転機となる大学進学や就職で食のバランスが乱れるという調査結果がある。大人の食育でも特に若い世代を中心に乱れやすい。そこを中心に国は取り組むと言っている。久留米市では、これまでも生涯を通じた取組みを行っており、「大人の」という言葉は入れずに、第4次プランの健康づくりのための食育をそのまま継承した形にしている。 取組の方向性に関しては、今後健康な食生活の実践支援について検討していく。
会長	標語が並んでいる形であり、Ⅰだけ「子ども」という主語がある。どこに力を入れていくのかは、今後施策がぶら下がっているとわかるようになると思うが、市民に実践してもらうためにわかりやすく、を念頭に今後の協議に繋げていってほしい。
B委員	「健全な」は価値基準、「健康な」は個人が目指すものだと思う。健康づくりの方が家庭のレベル、個人のレベルに落としやすいのではないかと。大人の食育はどこに表現されるのかなと考えたが、Ⅱに入るのかと思っている。すべての世代が健康になるために考えたときに、大人は行動変容がとても難しい。国際協力の経験もあるがそちらでも同じ。そうすると子どもをターゲットとして未来に向かおうとなる。国では職場や大学に入っていって組織ごと変えていこうとなっている。久留米市では高等教育コンソーシアム久留米という大学の横の連携がある。そのようなところを活用できると、大学に食育の動きが出るのではないかと。
事務局	今後、具体的な個別施策を検討するなかで整理していきたい。大人の食育について、国も、民間の事業者や団体、大学を巻き込んで国民運動として取り組んでいくと言っている。市としても行政だけでは行動変容に結びつけるのは難しいと考えており、民間と連携していきたい。
C委員	市のプランで大人の食育はどうしたらいいですか、というのをこの会議で話したいのだと思う。答えの一つを提案したいが、先ほど大学云々と言われたが、食生活の基本は子どもと親。家族での食生活を踏まえて大人になっていくので、まずは、親がちゃんとお飯を食べているかということ。現在は親の共働きが多いと思う。親は、自分は仕事に行くから子どもにはそこにある菓子パンを食べさせる、そうなりがち。親が食に関心があるかというこ

	とから子どもの食育が始まる。子どもの食生活は親が作るというところから始めたい。
D委員	うちも子どもが4人いる。菓子パンは極力避けているが、どうしても無理な時はある。習い事で遅くなったとしても、なるべく子どもと話をしながら一緒に食べるようにしている。食生活のバランスと言われると、どうしても時間に制約があるので厳しいときもある。
E委員	子どもに朝食を作る役割を私はしていないので何とも言い難いが、時代的に両親ともに働いて学童保育に預けているという事情は、過去に比べると増えていると思う。とはいえ保護者としてできる限り最大限のことをしていると思う。プランを作成してうまく実行できればそれに越したことはないが、実践となったときにハードルは高いのではないかなと思う。
C委員	誤解があるといけませんが、子どもにいろいろ食べさせなさいとか、一緒に食べなさいと言っているのではない。言いたいのは、親が食に関心があるか、親が自分の体に関心があるかということ。口の中は大事。親が歯医者に行くところを子どもに見せているかということ。子どもに何かしなさいということではなく、親が関心を持っているのを子どもに見せると、それが食育になり、子どもはついてくる。それが大人の食育だと思う。 食と農の理解の箇所、先日「にぎりめしの集い」に参加した。そこで聞いた話で、ブドウ農家が子どもたちに来てもらってブドウに袋をかける作業をしてもらったそう。袋には子どもが名前を書いておき、生長したら収穫に来て自分の名前を書いたブドウをちぎって持ち帰る。このような農業体験が農家への関心や食育につながると思い感心した。
F委員	私は長門石で米麦大豆と電照菊を生産している。長門石、篠山、京町小と保育園3園に対して学童農園をしている。子どもたちは、最初に学童農園に来るときの顔と帰るときの顔が違う。最初は嫌々で来るが、帰りは「ぼくたちの畑やん」となり、「今までただの景色だったものが自分たちの食卓に並ぶ」という意見をもらうことがある。学童農園は大切だと思う。
G委員	小学校が合併したので一緒に米作りや芋掘りなどができなくなった。保育園では栄養士による食育、先生が食育を楽しく教えるというのを年間何回かしているが、それだけでは足りない。私は3歳児と1歳児の子育て中だが、朝食を食べる環境がそろっているから何とかできる。うちの保育園では、食べたものを保護者に帳面に書いてもらっている。子どもに聞くと、帳面に書かれているものと違うものを食べていたりするが、その良し悪しではなく、やはり環境が大事。我が家では、自分が朝ご飯を食べなかったら子どもも食べなかった。子どもと一緒に食べるようにしたら、子どもも食べるようになった。ふりかけに飽きたら次はおにぎりにするなど、やり方を工夫すると食べる。親が食べないものは子どもも食べない、苦手になるということがある。保育士が工夫して食べさせたところ、食べるようになったということもある。難しいのは、子どもが苦手だということを食べさせていると、周りからは無理やり食べさせているようにも見える。嫌なものを食べさせなかったら偏食が進み、年長になったら食べなくなることもある。作った人の思いを考えたら、残飯をなくしたい。大人が身をもって何でもおいしく食べられる環境づくり

	ができれば食育に繋がると思う。
H委員	大人が食べないと子どもも好き嫌いが出ることもある。苦手でも何かしら一口食べるような心掛けの話をしている。 各基本施策について。子どもたちに対しては大人と一緒に共食や家庭と地域の連携を中心とした取組を考えてほしい。私自身、大学で働いており、バレエ部とバスケット部の栄養サポートをしている。学生たちは、高校までは学校、家庭や寮生活でちゃんとできていたが、大学に入って一人暮らしを始めて体調が悪く、ケガが増えるなどが起こる。人生の転機である進学、就職、親元を離れるなど、その視点で取組を考えてもらいたい。好き嫌いによる食べ残しについて、子どもたちが自身で作ったり育てたりしたものであれば口にすることなどの経験があるので、そのような取組を施策に入れてもらえるといいと思う。
I委員	目標像で、「いただきます」と「ごちそうさま」とあるが、その意味を感じて命をいただきそれに感謝する、親がそう感じて子どもに伝える。文言で表現するのは難しいが、自分は生かされているという気持ちを持つことは大事だと感じる。
J委員	乳幼児健診から学校歯科に関わっている。むし歯は全国的に減っているが、口腔機能発達不全症が増えてきている。口がぽかんと開く、口の力が弱く噛めない。いろんな硬さのものを咀嚼するときに、口元が開いているとくちやくちやと音が出たりする。唇が弱いと飲み込む力も弱くなる。乳幼児健診対象の子の保護者に、自身の予防のために歯科へ行くよう勧めている。そのときに子どもと一緒にいくことで、歯科は怖いところではない、むし歯になってから行くところではないと子どもに伝わる。子どもと食事をするときも、横に並んでではなく、前に座って噛む姿を見せるよう声掛けをしている。親の関心と言うのは食べるだけでなく、口への関心も必要。口元が緩くなると、食べる力や噛む力が弱くなる。全身の筋力は奥歯に関わることなど、伝えていきたい。
K委員	食は命の根源ではあるが、プランを作り文書化していくと、どうしても堅苦しい文章になる。ライフスタイルが変わって食生活が変化していると感じる。コンビニの弁当やカット野菜が悪いとは思わない。必要に応じて使い分けてよいと思う。市民の食育への関心は高いので、自分の都合がつく範囲で取り組めるようなプランができあがるといいと思う。農業体験など、久留米市の特性が落とし込まれるとよい。
B委員	国のプランだと農業だけでなく漁業も入っている。久留米の特徴としてはエツなどがあり、相手が福岡県民であっても勧めて食べさせると感激される。そのようなものも文化として伝えていけるとよい。郷土を愛することにつながる。また、国の計画で食料安全保障の中に適正価格が触れているが、北野町のイベントに学生が行ったときに、農産物の適正価格について考えさせられた。そういった部分も入れたらよいのではないかな。
事務局	久留米市は福岡県内最大の農業都市。高等教育機関も市内にいくつもあり、市の取組について学生にお手伝いしてもらいたいこともある。そのような特性を活かしたプランをつくっていきたい。いただいた意見を参考に事務局で素案

	の検討を進めていく。 水産も農政部が所管しており、参考にしたい。
L 委員	共働きの家庭が多いという意見があった。ご飯をしっかり作って食べさせることも大事だが、子どもと触れ合う時間や子どもと笑顔で一緒に過ごすことが大事。これから子どもを育てたい人を増やすためにも、違う視点も入れたものを作れるといいと思う。たとえば、カット野菜を作っているメーカーと共同で、職場で気軽に食べられる野菜の提供などの取組みもいいと思う。都会では、オフィスに置いている冷蔵庫にスティック野菜が置いてあり、福利厚生で会社が一部負担し社員は 100 円や 200 円で食べられるという取組みがある。そのような取組みができると、大人の野菜摂取量が増えるのではないか。子どもの生きる力を伸ばすことは必要で、家庭科ではご飯をきっちり炊くことを教えると思うが、ご飯は電子レンジでもできるので、自分で簡単にご飯を食べるためにどうするかということを夏休みなどにできれば、おなか为空いたときに菓子パンではなくそのようなものを食べようということにつながる。自分で作るのは楽しさにもつながる。色んな視点の取組みが入るとよい。長崎では冷蔵庫の残り物はなんでもチャンポンにする。味噌汁は何を入れてもよい。我が家の味噌汁はトマトとベーコンとピーマンが入っている。地産地消でいろんな美味しいもののメニューを栄養士が作るが、冷蔵庫の残り物で作ることも SNS などで提案してもらえればよいのではないか。
会長	少しでも取組みの実感がわくようなプランと施策の案を期待したい。

5 その他